

日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム
2024年度第2回コンソーシアム会議 議事録

日 時： 2024年10月16(水) 13:00~14:30

場 所： Zoom ミーティング

出席者：(敬称略) 出席者下線

ゲスト：山中直明殿, (電子情報通信学会会長)

代 表：廣瀬壯一 (部会2) 副代表：山本誠 (部会3)

幹 事：白旗弘実 (部会1), 湯地敏史 (部会2), 伊藤宏幸

委 員：結城義敬、久保田寿夫、田中皓介、高橋章浩、佐藤勲、

中澤浩介、三田清文、新宮清志、細澤治、吉田佳典、後藤まどか、井上裕嗣

オブザーバ：對崎真楠、今井悠一郎、和田卓、原口亮治

維持員：石田好輝、最上公彦、森田勉

顧 問：有信睦弘、松瀬貢規、岸本喜久雄

事務局：竹内章晃

議 題： (順不同)

1. 電子情報通信学会 会長声明 (山中直明会長殿による講話及び質疑応答)
「大学・大学院の教育機会を尊重した求人スタイルへの移行」について
2. 話題提供 岸本喜久雄 顧問
「我が国における IPD(初期能力開発)システムの構築」について
3. 2024年度第1回(6/6)コンソーシアム会議議事録確認
4. 今後の活動について
5. その他

配布資料：

- 0-1： 2024年度第2回科学技術人材育成コンソーシアム会議 議題表 (本紙)
- 0-2： 2024年度科学技術人材育成コンソーシアム役員・委員名簿(最新)
- 1： 「大学・大学院の教育機会を尊重した求人スタイルへの移行」
- 2： 「我が国における IPD(初期能力開発)システムの構築」
- 3： 2024年度第1回コンソーシアム会議 (2024/6/6) 議事録 (案)

議 事：

1. 日本産業技術教育学会の声明およびコンソーシアムの対応

山中直明電子情報通信学会会長より、「大学・大学院の教育機会を尊重した求人スタイルへの移行」のタイトルで講演をいただいた。

日本の就職活動の新しい仕組みを提案したいと考えている。現在のやり方では企業も学生も疲弊している。米国ではトップレベルの学会は Ph.D.学生の研究アピールの場であるとともに、就職活動の場でもある。若手技術者には転職の場でもある。

電子情報通信学会では学生がすすんで学生会員となり、学会で発表を行うことで企業とのマッチングを図り、会社が学生に金銭などの支援を行い、最終的には就職に結びつけられるような仕組みを作っている。テックオフアースポンサーと呼んで活動を推進している。

C1 知能ロボット学会では、テクニカルマッチングセッションというものがある。外国では30代あたりで、マネジメントかエンジニアかキャリアパスを決める必要が出てくる。日本では技術系上司が人事評価を行うことが問題に思う。

A1 日本は流動性が低いと思う。最初の配属先で運が決まる面がある。

C2 声明をすすめることが重要と思う。学会、大学も共同で声明を出せるとよい。人材育成で企業と大学で連携していくことが大切と思う。

A2 一学会でやっていけるのか、という意見もいただいたことがある。異議をとねえることが重要だと思う。賛同してくれる人が増えるとありがたい。大学の学長、理事長は(短期間の)インターシップを禁止することが必要と思う。

2. 我が国における IPD システムの構築

岸本顧問より「我が国における IPD(初期能力開発)システムの構築」のタイトルで講演をいただいた。

技術者の活躍を支える国際的枠組みを構築することが重要である。国際エンジニアリング連合(IEA)では高等教育機関の質保証、専門職資格の質確保・国際流動化を目指して活動している。高等教育機関の質保証は GA(graduate attribute)、専門職資格の質確保は PC(professional competency) と呼ばれているが、高等教育機関を卒業した若手技術者の訓練と経験を積むことを目的とした初期能力開発(IPD)システムが必要となる。

日本では、JABEE により GA は確保できていると考える。技術士制度を対応させていくことで、IPD 構築を行っていく。現在では、技術士と APEC エンジニアでは CPD などでは違いがある部分も残っている。技術士制度改革が必要である。技術士 1 次試験あるいは JABEE 認定校を卒業した技術者は修習技術者として、IPD 教育を受けてもらう。IPD プログラム提供機関などステークホルダーの定義が重要となってくる。

Q1 建築分野では技術士よりも 1 級建築士を目指す人が多い。建築士も念頭に入れて、IPD システムを構築していただきたい。

A1 APEC エンジニアは国際的な資格ということで建築出身でもとることができるが、数としては少ない。海外ではなかなか使ってもらえない。APEC では建築士の動きもモニタリングしており、日本では建築卒業生が技術士を取らない傾向があることは気にしているようである。

Q2 今までは会社の企業教育と関連していたように思うが、IPD はどのような位置づけになるのか。

A2 IPD 懇談会では活用法などいろいろな会社にヒアリングしている。コンサルタント系の会社では、GAPC をモデルにやっている。活用していきたいという会社も増えている。教育の目標が社内ですべてとどまっているパターンが多いが、技術士会でよいモデルパターンを示せるようにしたい。

Q3 技術士資格だけではなく、学会の資格も入れ込めるとよいと思う。

A3 イギリスのチャータードエンジニアは **Engineering council** という学協会が管理している。認定の方法は国によって異なる。日本では縦割り感はあるが、それぞれの工学分野でいい方法があれば、取り入れていくことはよいと思う。

3. 議事録の承認

前回の議事録案を承認することとし、気がつくことがあったら後日連絡することとした。

4. 部会報告

今回は特にないということで、報告された。今後も WG の枠組みは継続していくこととした。

5. 今後の活動について

今後の活動について意見が交換され、岸本前代表のスタイルで話題提供と Q&A で意見交換していくことを確認した。話題提供者を紹介してほしいとの依頼もなされた。

6. 次回

後日、1月までの間を念頭に、日程調整することとした。

以上